

| | | |
|--------------------------------|---|------------------|
| 活動名 | 団体名 | あきおおた国際音楽祭 実行委員会 |
| | 地域 | 広島県山県郡 |
| | 代表者 | 事務局長 中川 圭子 |
| | 支援金額 | 25 万円 |
| 2015 あきおおた国際音楽祭 with Bechstein | | |
| 活動概要 | <p>被爆 70 年を迎え、広島之源流の町で「未来を担う子供達から世界に平和のメッセージを発信しよう！」と音楽とアートの祭りを開催。第 1 部は、日本を代表するピアニストであり、子供達の育成をライフワークとして活躍されている仲道郁代さんの演奏。第 2 部は、詩人アーサー・ビナードさんの指導のもと、ヤマユリを被爆者に届けて 65 年を迎える上殿小学校の児童が、作詞活動を行い詩「やまゆりのきもち」ができあがり、これにロス在住の Mayuka Thaïs さんが作曲、Scott Nagatani さんの編曲で歌が作られた。「やまゆり物語」は今までの上殿小学校の活動写真をバックに SHIORI さんが朗読し、子供達とマユカさんで「やまゆりのうた」を歌った。さらに公募で集まった詩を元にした「へいわくんくん」の詩には、インターナショナルスクールの高校生が作曲、エリザベト音大の学生坪北紗綾香さんに編曲してもらったものを合唱団総勢 72 名で合唱。アート部門では、広島に届けられた千羽鶴等を使い、園山春二さんとその仲間達が中心となり竹のドームを創作。その作品は、その後様々な所で巡回展を開催。今後、you-tube 等を通じて世界に発信する予定である。</p> <p>◆実施時期 8/1-2 あきおおた国際音楽祭（戸河内ふれあいセンター） 8/1～10/19 アート展 巡回展</p> <p>◆参加人数 合唱団関係 83 名、入場者 364 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員：447 名</p> | |



被爆 70 年 広島之源流の町あきおおたで音楽とアートの祭りを開催



広島に届けられた千羽鶴等を使い、竹のドームを創作



ヤマユリを被爆者に届けて 65 年を迎える上殿小学校の児童など子どもたちの手による 2 つの歌が、仲道郁代氏のピアノ伴奏で披露された



◆実施に伴う効果

今までなかなか地元の人に音楽祭が認知されておらず、クラシックへの敷居が高かったようだったが、この度、地元の小学校や子供達、また地元の合唱団の方々に参加してもらえた事で、今まで以上に沢山の方々から喜びと感謝の言葉を頂いた。近隣の町からもこれまでの実績を見て、アドバイスをしたいとの相談があった。

また、プロの音楽家の中でもこのピアノが評判になっており、音楽祭への出演者の依頼が増えてきている。

◆苦勞した点

いつも苦勞しているのが、素晴らしい出演者と企画をしても、交通の便が良くない田舎の町に人が来ていただけるかという事と、予算的に賄えるかという心配である。場所が場所であるが故に、チラシ等の入れ込み、ポスターの掲示等、DM、Facebook等のPRに力を入れているが、2万枚を超えるチラシの入れ込み等、時間的人為的負担がかかりすぎているのが現状である。

地域の方々、公的機関との連携の難しさもいつも感じている。

◆今後の課題・発展の方向性

これからは、「あきおた国際音楽祭」が沢山の人達に認知してもらえ、地域の活性化にも繋がるような音楽祭に成長するよう、継続して開催できるような地域の体制づくりをしていくことが大切である。また、ピアノに関しても、性能維持のためにももっと頻繁に使用してもらえるようにしていく事が大切である。2年後の出演者も決まっているので、地域の人達を巻き込んだきちんとした体制づくりをしていき、地域の誇りとなる音楽祭を目指して頑張っていきたい。

今年度制作した2曲の歌について、これからも音楽祭で地元の子供達を中心に歌い繋いで行く。また、英語の字幕をつけてyou-tubeにてUPしていき、英語でも世界中の人達に歌って頂けるようアプローチしたい。

来年度の大植英次さんプロデュースの威風堂々クラシックにて、この度制作した「やまゆりの歌」を子供達の合唱等で取り上げて頂ける方向で検討を頂いている。他にも様々な所で取り上げて頂けるようにする。

◆活動を終えての感想・意見等

この度、マツダ財団よりの助成金を頂けた事で、安心して行事に取り組む事ができました。心より感謝しております。今後も地道な活動を継続していきたいと思っております。